

鳩から詩を書くようにと命令される

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2024年3月修了

江梦媛

主査 百瀬俊哉 副査 大日方欣一 佐藤慈

研究背景

2019年、私は日本に来た。新型コロナウイルスのために帰国できない時期に、中国にいる祖父と祖母が亡くなった。このことから、死に対する恐れと悲しみが大きくなった。その時、私はよく山に行き、一日中いた。これが不安を解消する唯一の方法だと思う。山の中で、生と死のつながりが感じられるようだ。そこから、このような感情の変化とともに、一連の詩を書いた。そして詩に基づいて、このシリーズを作った。

研究目的

私は写真で詩的な世界を再構築し、異なる意味を増し、写真の中に存在する詩の並行世界を作りたい。詩歌の感じと雰囲気から、写真の構図、光、色彩などの要素で詩を表現する方法を探します。詩と写真を融合させて生まれた新たな表現可能性の意味を発掘します。詩と写真という異なる表現手段を融合することで、新たな芸術表現を生み出すことができると思う。

研究概要



成果・まとめ

写真作品における詩的表現は、感情やメッセージをより深く伝える手段となります。写真と詩の組み合わせは、写真と言葉の硬直した組み合わせや単なる足し算ではなく、写真と言葉の間に緊密な相互作用が存在し、両者の間に対話と融合が起こり、文学と写真の双方を超越した結果を形成する。その組み合わせは、写真芸術と文学芸術を融合させたまったく新しい芸術形式である。



指導教員コメント

写真と詩の関係は相互依存的であり、切っても切り離せないと作者は考えている。写真制作において、言語を作品に取り入れることで、表現力を高め、独自の視覚言語を構築することを目標にしている。本作では撮影を通して瞬間のあらゆる感覚を残し、今悩んでいる気持ちや思いを写真で表現することに成功している。写真と詩による表現の差異などを理解した上での表現を確立しつつある。

百瀬俊哉